

平成 27 年度学校評価に関する調査集計結果

【職員・児童生徒・保護者・関係機関】



本校舎清明祭 幼稚部「大きなかぶ」



小学部「ライオンの涙」



「さくらなみき美術館」
＜中学部のマット製品＞



作品展示
＜みなトモの印鑑入れと高等部のマスコット＞



「高等部相撲ボランティア」
体育館全面のシート貼り



「山目市民センターまつり」に出品



「ハピきら遠足」



「山目校舎・あすなる分教室運動会」



「みなトモ体育祭」



あすなる分教室入学式
中学部 2 名、高等部 2 名



あすなる分教室
PTA 親子ふれあい行事「陶芸教室」



岩手県立一関清明支援学校

平成 27 年度 学校評価に関する調査の結果と分析

一関清明支援学校

平成 28 年 2 月

○ はじめに（結果と分析にあたり）調査にご協力ありがとうございました。

平成 27 年度の学校評価は、平成 27 年 11 月 26 日～12 月 11 日に実施しました。

対象は、「本校職員」、「児童生徒」、「保護者」、そして昨年度から外部評価として「関係機関」を対象に加え、今年度は自由記述だけでなく調査項目を設けました。

本校職員については、すべての教職員を対象に実施し、昨年度の反省から、児童生徒については言語による表出ができる児童生徒を対象としました。ただし、教師による読み取りが可能な児童生徒も対象としました。

集計の際には「無回答」の項目を設け、有効回答から除きました。

また、復興教育（「いきる」「かかわる」「そなえる」）について、平成 27 年度の「学校経営計画」では「そなえる」を重点として防災教育の推進としていましたが、設問内容が、昨年までの「かかわる」についての内容となっていました。次年度は、この点についても見直していきたいと思います。

教育活動は一人一人の教職員が参加して作り上げるものであると考えておりますので、データが示す数字に込められた「子供たちの思い・保護者の思い」に心を寄せることが大切であると認識しているところです。

以下、「教職員」「児童生徒」「保護者」「関係機関」の調査結果の概要と分析を述べます。

1 教職員（資料 1 参照）の結果・分析

(1) 全体の傾向

教職員全員に実施し、全員から回答を得ています。自由記述には 8 項目に延べ 28 人の評価や課題、改善策が寄せられました。評価の全体の傾向としては、プラス評価が 80%を超えた項目は 28 項目/30 項目（昨年度 27 項目）、マイナス評価が 10%を超えた項目は 7 項目/30 項目（昨年度 6 項目）と、昨年度と比べプラス評価が増加しましたが、ほぼ同様の結果となっています。

(2) プラス評価（「よくできている」＋「おおむねできている」）

プラス評価の全項目の平均は 92.0%（前年度 91.3%）の微増でした。90%を超えた項目は、22 項目/30 項目（昨年度 21 項目）、その中でも 95%を超える高い評価となったのは、下記 15 項目（昨年度 12 項目）でした。

<学校経営全般>

- ① 育目標や経営方針を適切に設定、実践。
- ② 校の取組、幼児児童生徒の様子を保護者へ情報提供。
- ⑦ 教職員の外部への丁寧な対応。
- ⑩ いじめ、体罰、差別等を排除する学校づくり。

以上の 4 項目が 95%を超える評価でした。自由記述には「地域の資源活用」「保護者への情報提供」「いじめ防止への対応」を評価する記述（10 人、昨年度 3 人）などがありました。保護者への情報提供、地域の資源等を活用した取組は、本校で大きな成果をあげています。高い評価となったと項目と併せて、今後も継続して取り組んでまいります。

<教育活動>

- ① 幼児児童生徒が有用感をもって学習に参加するよう努めている。
- ② 幼児児童生徒の実体、保護者のニーズを反映させた個別の指導計画の活用。
- ③ 幼児児童生徒の実体に合わせた健康管理や体力向上の指導。
- ⑤ 地域や居住地校との交流や共同学習を積極的に推進している。

以上の4項目が95%をこえる評価でした。これらは教育活動の根幹を成す内容です。自由記述には「他校・地域との交流」(7人)、「個に応じた指導」(2人)や「進路に関する指導」(2人)・復興教育(2人)等々を評価する記述などがありました。各学部、各校務部において、生徒や保護者のニーズに応える工夫を凝らした取り組みの成果と思われます。また、進路については、3年生本校舎高等部18名、あすなろ分教室6名はそれぞれの進路実現に動いています。そのうち、本校舎3年生の就職希望者は8名で、まだ実習中の生徒もいますが、1名の就職が内定しています。今後も、充実した教育活動を展開していきたいと思ひます。

<学校・保護者・地域の連携>

- ① 幼児児童生徒の指導に関し、保護者のニーズの把握に努めている。
- ② 保護者のニーズを反映させた教育活動。
- ③ 保護者に幼児児童生徒の様子を分かりやすく伝えている。
- ④ 保護者が相談できる環境づくり。
- ⑥ PTA活動に対しての適切な支援。
- ⑦ 地域の特別支援教育の中心的役割を十分に果たしている。

以上の6項目で95%を超える評価でした。これらの項目は、いずれも昨年度に続き高い評価となっています。自由記述には「おはなしサロンなどPTA活動」を評価する記述(3人)、「保護者との連携」「ホームページ」「一斉メール」を評価する記述(5人)などがありました。学校・家庭・地域の連携は、本校が経営方針に掲げる重要項目です。今後も三者の連携の元に育ち合う学校づくりを目指していきます。

<研修>

- ③ 部で授業研究が行われ、幼児児童生徒の社会自立に向け生きる力を高める授業実践。

以上の1項目が95%を超える評価でした。

自由記述には「学部ごとに行った授業研究」への評価(3人)の記述がありました。平成26・27年度の本校の研究テーマには「個性や能力を生かし、着実な成長を後押しできる授業づくり」を掲げています。校内研究と関連させながら、授業研究と授業実践をさらに充実させていきたいと思ひます。

(3) マイナス評価(「あまりできていない」+「できていない」)

マイナス評価の全項目の平均は5.3%(前年度6.2%)と0.9ポイント減少しました。プラス評価が80%を下回る、または、マイナス評価が10%を超えた項目は3項目でした。

<学校経営>

- ⑥ 会議の精選や意志決定の迅速化、ゆとりや見通しが持てる職場環境の整備(プラス評価62.5%、昨年度56.1%:6.4ポイント増加、%、マイナス評価35.0%、昨年度41.2%:6.2ポイント減少)。
- 自由記述には、「環境・衛生面の整備」(7人)、「安全・防災・危機管理」(4人)、職場環境(4人)など職校舎の施設・設備の改善を求める声が多く見られました。この項目は昨年度と比較してもそれぞれ3.7ポイント、3.5ポイント下がっています。大きな災害も想定し、緊急時に対応した設備、訓練の実施など再検討が必要です。

<教育活動>

⑦被災地のニーズに対応した復興教育の推進（プラス評価 71.7%、昨年度 74.5%、マイナス評価 10.8%、昨年度 14.9%、わからない：17.5%）。

自由記述には、居住地交流や他校交流、復興教育など、学部ごとの取組を評価する声はありますが、特に改善策などは挙げられていません。“被災地のニーズに対応した”という表現について、平成 27 年度の学校経営計画では、復興教育の推進を掲げ「いきる」「かかわる」「そなえる」の教育的意味の実践で、今年度は「そなえる」にシフトした防災教育の推進という教育内容を実践してきましたが、その実践に即した設問内容に変更するべきであったと考えます。また、千厩分教室には養護教諭が常駐でないことから生じるマイナス面について記述がありました。（1人）

<研修>

③校外で開催される研修会や長期休業中の勤務場所外研修に、教職員が参加しやすい環境づくり（プラス評価 85.8%、昨年度 77.2%：8.6 ポイント増加、マイナス評価 12.5%、昨年度 14.9%：2.4 ポイント減少）。

校舎間での評価の差が大きい項目でした。自由記述には「教職員が参加したい研修会への参加体制の整備」を求める記述（7人）がありました。本校は4障がいに対応した支援学校であることから、それぞれの障がい種で大きな研究大会があります。研究部が全体研修計画を立て進めていますが、さらにそれらを含め各校舎・分教室や学部間のバランスを考慮し、教職員の要望を取り入れ年間の研修への参加体制を計画的に整備し、予算を有効に支出していくように検討することが求められます。

(4) その他

⑨危機管理体制を適切に設定し、運用（プラス評価 94.2%、マイナス評価 5.0%、わからない 0.8%）

⑩いじめ、体罰、差別等を排除する学校づくり（プラス評価 95.0%、マイナス評価 1.7%、わからない 3.3%）については、職員の姿勢として、本来は 100%を目指して教育活動を行っているはずですので、学校としては対応を検討していかなければならない課題であると認識しております。特に、いじめ等の排除に関する⑩の設問については、1名でもマイナス評価の職員が存在することは、学校として反省していかなければならないことであると考えております。そこで、教職員へのヒアリングの結果、指導方針について、年度はじめの際に教職員間で共有できなかったという点で、そのような評価となったことであったことを確認しました。このことについても改善をしてまいります。

2 児童生徒（資料2 参照）

(1) 対象児童生徒について

幼稚部を除く、小学部から高等部までの児童生徒を対象に実施しました。実施回答率は下記のとおりです。昨年度の反省から、児童生徒については言語による表出ができる児童生徒を対象としました。ただし、教師による読み取りが可能な児童生徒も対象としました。

また、同じく昨年度の反省から「無回答」は有効回答から項目ごとに除き、できるだけ実態に近い調査となるようにしましたが、「わからない」については、やはりまだ項目によっては割合が高いものもあり、今後、さらなる検討が必要であると考えます。

実施回答率	小学部	中学部	高等部	全体
	73.1%	65.3%	80.7%	74.6%

(2) 全体の傾向

プラス評価の全体平均は、下記のとおりです。()内は前年度の数値です。小学部が90%を上回る高い評価であるのに対し、中学部と高等部は共に70%台となっています。ただし、中学部については、昨年度 高等部よりも低い評価であった理由に「わからない」の割合が高く(平均20.1%)、今年度は平均11.1%(昨年比-9.0ポイント)となっており、昨年度に比べるとかなり減少しました。また、「無回答」を除いた割合ですので、その分とも思われるプラス評価が増えています。

プラス評価の平均 (昨年度)	小学部	中学部	高等部
	92.1% (90.8%)	84.3% (73.3%)	74.1% (74.2%)
	1.3ポイント増加	11.0ポイント増加	0.1ポイント減少

(3) プラス評価(「はい」と回答)について

<小学部>

全6項目中全て(昨年度は4項目 ①・②・③・④)でプラス評価80%以上でした。特に①・③・④・⑥の項目は90%以上のプラス評価でした。子どもたちが伸び伸びと楽しく学校生活を送っていることが推測されます。

<中学部>

全8項目中6項目(①・②・④・⑤・⑥・⑦)がプラス評価80%以上でした。80%を下回った項目でも、③はマイナス評価2.5%(1人/40人)、⑧は同0.0%(昨年度8.3%、3人/36人)、プラス評価75.0%(昨年度58.3%)でした。自由記述でも「学習・行事が楽しい」など評価する記述が多く見られ(13人)、ほとんどの生徒が、学校生活を楽しく感じ、教職員の学習や学校生活への支援を評価しています。

<高等部>

全10項目中6項目(②・③・④・⑤・⑥・⑩)でプラス評価80%以上でした(昨年度は同数)。80%未満の項目でも、⑦・⑧はC(わからない)56.9%・54.4%と交流や奉仕活動は限られた学年であり、意識付けに課題が残りました。自由記述では「二高交流が楽しかった」などの交流を評価する記述(6人)、「勉強をわかりやすく教えてくれた」など学習での教職員の支援や行事の内容を評価する記述(7人)や「友だちと過ごすのが楽しい」など友人関係を評価する記述(4人)、「悩みを先生と一緒に聞いてくれた」など教職員が相談にのってくれたことを評価する記述が見られ、多くの生徒が教職員の支援のもと、充実した学校生活を送っている様子が窺えます。

(4) マイナス評価(「いいえ」と回答)について

<小学部>

マイナス評価が10%を上回った項目はありませんでした。(昨年度は2項目)。

<中学部>

マイナス評価が10%を上回ったのは下記の1項目(昨年度は3項目)。

①あなたは、学校生活が楽しいですか(マイナス評価が12.8%、昨年度13.9%：5人/40人)

自由記述で「友人関係の悩み」を訴えている生徒(1人)がおり、生徒の声を十分に聞き取り生徒の悩みに寄り添った具体的な支援が必要です。

<高等部>

マイナス評価が10%を上回ったのは下記の1項目（昨年度2項目）。

- ① あなたは、学校生活が楽しいですか（マイナス評価10.0%、昨年度10.1%：4人/71人）

自由記述の中に「進路への不安」もあったことから、生徒達のニーズを把握し、進路実現につなげられるよう支援していくことが必要です。

3 保護者（資料3 参照）

(1) 全体の傾向

回答率は92.6%（176人/193人・昨年度88.8%）と高く、自由記述7項目にも延べ66人（昨年度142人）がさまざまな評価や改善を求める声を寄せていただき、関心の高さが見て取れます。また、今年度は昨年度の反省から、無回答を項目ごとの有効回答から除きました。

17項目中4項目で、昨年度よりプラス評価の割合が増えています。また、「わからない（評価できない）」の回答は6.3%（昨年度7.4%、1.1ポイント減）と、昨年度よりも少なくなり、学校行事やPTA活動への保護者の参加が増えたことや、広報や連絡文書により学校への保護者の関心が高まった好ましい結果と受け取れます。

(2) プラス評価（「よくできている」＋「おおむねできている」）について

プラス評価の全項目の平均は88.3%（昨年度88.8%）でした。プラス評価80%以上の項目は、全17項目中14項目（昨年度15項目）、さらに90%を超えた項目は17項目中11項目（昨年度同数）でした。中でも下記の4つの項目は、ほぼ95%の高い評価でした。

- ① 学校は、教育方針を分かりやすく伝え、達成できるように努力していますか。（94.9%）
⑧ 学校は、個別の指導計画や教育支援計画に、保護者の願いを反映させていますか。（93.1%）
⑩ 学校は、健康管理や体力向上についてお子さんの実態に合わせて適切に行っていますか。（94.3%）
⑪ 学校は、幼児児童生徒一人一人が活躍できるように学校行事を工夫して行っていますか。（93.7%）
⑬ 学校は、保護者宛の文書や広報等で、学校の取組や幼児児童生徒の様子について、わかりやすく情報提供をしていますか。（94.0%）

プラス評価については、自由記述の中でも「児童生徒・保護者への対応」（10人）、「校外活動や交流」（9人）などの学校経営について17人、「個々に対応した学習支援」「行事内容の工夫」「地域交流や学校間交流」など教育活動について31人、「“お話しサロン”などPTAのさまざまな取組」や「日々の連絡帳や学級・学部通信、学校通信“せいめいのき”など学校からの情報提供」「福祉サービスの学習やその他の地域との連携」など学校・保護者・地域の連携について22人、「教職員の対応」などその他の項目にも保護者が評価する声や感謝の気持ちを記述しています。日々の教育活動の中での幼児児童生徒の変化や学習や行事の工夫、今年度新たに取組んだ内容にも一つ一つ目を向けていただいております。保護者が常に学校に関心に向け、教職員や地域と一緒に一関清明支援学校を作り上げていこうという姿勢を読み取ることができました。

(3) マイナス評価（「あまりできていない」＋「できていない」）について

マイナス評価の全項目の平均は5.3%（昨年度3.8%）でした。プラス評価が80%を下回った項目は下記の3項目（昨年度2項目）で、特に⑮については、マイナス評価が10%を超えました。

- ⑭ 学校は、お子さんの進路について、十分な情報提供をしていますか。（プラス評価79.6%、マイナス評価11.1%、プラス評価の昨年度比5ポイント減少）
⑮ 学校は、地域の福祉サービス等について、十分な情報提供をしていますか。（プラス評価76.4%、マイナス評価11.2%、プラス評価の昨年度比1ポイント減少）

⑬学校は、ホームページを活用して、十分な情報発信を行っていますか。(プラス評価 69.6%、マイナス評価 9.3%、プラス評価の昨年度比 6ポイント増)

⑭の進路情報、⑮の福祉サービスの情報提供については、昨年度から校舎・学部ごとに研修会を実施しています。今年度は各学部の実態を考慮した内容を工夫したものを実施しております。しかし、保護者が望む福祉サービスの形態も多様化しており、今後も、より保護者のニーズに合った研修会や情報の提供を進めていく必要があります。

⑯のホームページの掲載については、自由記述で更新をまめに行っている学部や内容を評価する声が見られる一方で、校舎や学部間の更新期間に大きな差が見られ、職員からも更新時期を校内で設ける等の改善策が寄せられていますので、内容の見やすさ等の工夫と併せて改善に努めてまいります。その他に自由記述欄で「施設設備」に関する記述(4人)で、4障がいに対応した施設設備の改善を求める声が挙げられており、校舎間のバランスを考えながら優先順位をつけてし、改善していく必要があります。

また、昨年度からの新しい設問⑥「いじめ、体罰、差別等を排除する学校づくり」については「わからない(評価できない)」の回答が14.1%と高く、昨年度は15%を超えていました。本校では、職員向けの研修会を開催し、組織として対応するなど、一層のいじめ等の未然防止に努めていますが、併せて早期に発見対応できるように小学部・中学部・高等部の児童生徒を対象に「生活アンケート」を実施し、いじめの調査を行っています。その中で、生徒間のトラブルや「いじめ」と感じているという事案や訴えが3名あり、2名は解決済(過去の事例であったため。)です。1名についても継続して指導しております。一つ一つの事案に対していじめ等が発生した場合は、迅速な対応を行っています。こうした取り組みについても、保護者にわかりやすく発信していきたいと思ひます。

さらに、昨年度にご意見をいただきました「温かい汁物の提供」を要望する声には、まず試行的に汁物の提供やお茶の提供などを昨年度実施いたしました。その結果、汁物については、「大量調理安全衛生基準」や「学校給食法」により提供が困難であり、温かいお茶の提供を行ったところです。今年度におきましても、今月下旬より提供をすることとしております。

その他にも、自由記述の中にさまざまな具体的かつ建設的な改善要望が寄せられており、これら一つ一つを真摯に受け止め、子供の成長に寄り添い、時間をかけて相談しながら今後の学校運営に活かしていきたいと思ひます。

4 関係機関 (資料4 参照)

福祉サービス事業所7カ所、継続型支援対象校11校に学校評価を依頼し、17機関から回答をいただきました。今年度は自由記述だけではなく、4設問に回答いただきました。自由記述からは、連携に関するプラス評価を多くいただきましたが、地域行事への参加や校外作品展への出品に関して、わからない(評価できない)が29.4%と高かったことから積極的な情報発信に努めていく必要性を感じております。

(1) 評価する内容

回答をいただいた17の関係機関すべてから、評価する内容の記述がありました。特に②・④への評価が高い傾向が考えられます。

評価する内容としては、継続型支援対象校からは「指導方法や授業づくりへ」の助言、「研修会・ケース会議での助言」「進路」「保護者支援」「校内・地域の支援体制」などがありました。福祉サービス事業所からは、学校との連携についての評価がすべての事業所から挙げられています。

(2) 要望や意見

要望としては、一関地域全体のインクルーシブ教育の推進を望む声や本校のセンター校としての役割をさらに期待する記述がありました。インクルーシブ教育については、本校だけではなく地域の学校や関係機関も含め連携を深めながら地域全体として構築していく必要があります。福祉サービス事業所からは、連携会議の継続と回数の増加を望む声がありました。これらの具体的な改善の要望や意見については個々に対応していきたいと思います。

5 三者間（児童生徒・保護者・職員等）の類似した設問における比較

昨年度の第2回学校評議員会におけるご意見を反映させ、今年度の結果分についてプラス評価（児童生徒：はい、保護者・職員・関係機関：よくできている+おおむねできている）の占める割合について比較検討してみました。

<学校経営全般について>

1 児童生徒⑤小：学校には、あぶないところがなくて、あんしんですか。

⑤中：学校は、安全で過ごしやすいですか。

⑤高：学校は、安全で過ごしやすい環境が整えられていますか。

保護者③学校は、幼児児童生徒の病状や障がいに配慮し、安全な教育環境を整えていますか。

職員⑤学校は、幼児児童生徒の病状や障がいに配慮し、安全な教育環境を整えている。

児童生徒平均	保護者	職員
83.5%	95.4%	84.2%

三者間で、最大11.9ポイントの差があります。危険箇所を見直したり、児童生徒への聞き取りをするなど、より一層の環境整備に努めていきたい。

<教育活動について>

2 児童生徒①小・中・高：あなたは、学校が楽しいですか。

保護者⑦お子さんは、学校で楽しく学習活動に参加していますか。

職員①学校は、幼児児童生徒が有用感をもって生き生きと学習活動に参加できるように努めている。

児童生徒平均	保護者	職員
85.0%	91.1%	98.3%

小学部 97.4%

中学部 84.6%

高等部 72.9%

三者間で、最大13.3ポイントの差があります。職員の自己評価として取組姿勢としては、生き生きと学習活動に参加できるように努めている姿が推測されますが、より充実した学校生活を送れるよう、児童生徒の声に耳を傾け、発達段階に即した支援を心掛けたいと思います。その差について、児童生徒のニーズに応じた教育活動となっているか検証することが求められます。

- 3 児童生徒⑥中・高：先生は、あなたが病気やけがをしないようにするためには、どうすればよいか教えてください。

保護者⑩学校は、健康管理や体力向上について、お子さんの実態に合わせて適切に行っていますか。
職員③学校は、幼児児童生徒の実態に合わせて、健康管理や体力向上の指導を適切に行っている。

児童生徒平均	保護者	職員
88.8%	94.3%	96.7%

中学部 87.5%・高等部 90.1%

三者間で、最大 7.9 ポイントの差と小さく、三者とも 85%以上であり、認識がおおむね一致していると考えられます。

- 4 児童生徒⑦小：（交流学习では）友だちと、楽しく交流できましたか。

⑦中：（交流学习では）他校や居住地校の生徒と十分に交流できましたか。

⑦高：一関二高との交流学习では、十分に生徒同士の交流ができましたか。

保護者⑫学校は、地域や居住地校等との交流学习や共同学習を十分に行っていますか。

職員⑤学校は、地域や居住地校との交流や共同学習を積極的に推進している。

児童生徒平均	保護者	職員
74.0%	81.6%	95.0%

小学部 94.4%（昨年度 77.8%）、わからない：5.6%

中学部 87.5%（昨年度 52.8%）、わからない：6.3%

高等部 40.0%（昨年度 37.7%）、わからない：56.9%

似ている設問で、内容が少し異なりますが、三者間で、最大 21 ポイントの差があります。

小学部については、交流学习や居住地交流を活発に行っており、児童も充実していると感じていると察されます。中学部については、交流活動の参加者が少なく、学校間活動の取組が課題であると考えられます。高等部では一部の生徒による活動であったことや発達段階を考慮しても、学習活動の位置づけとしての指導に課題があると考えられることから、在り方を検討していきたいと思います。

<学校・保護者・地域の連携について>

- 5 保護者⑬学校は、保護者宛ての文書や広報等で、学校の取組や幼児児童生徒の様子について、わかりやすく情報提供をしていますか。

職員③学校は、保護者に対して、幼児児童生徒の様子をわかりやすく伝えている。

保護者	職員
94.0%	98.3%

二者間で、4.3 ポイントの差がありますが、90%以上の評価があり、二者の認識がおおむね一致していると考えられます。

- 6 生徒⑨高：先生は、進路について十分な情報を提供してくれますか。

保護者⑭学校は、お子さんの進路について、十分な情報提供をしていますか。

職員⑤学校は、保護者に対して、進路に関する十分な情報を提供している。

高等部生徒	保護者	職員
78.3%	79.6%	87.5%

三者間で、最大 7.9 ポイントの差と小さいものの、生徒・保護者においては 80%に届かず、情報提供が十分とは言えない状況であると考えられることから、生徒や保護者のニーズに応じた内容の、きめ細かい情報提供をより一層努めていきたいと思います。

- 7 保護者①学校は、PTA活動に適切な支援を行っていますか。
職員⑥学校は、PTA活動に対して、適切な支援を行っている。

保護者	職員
90.7%	97.5%

二者間で、6.8ポイントの差がありますが、90%以上の評価であり、二者の認識がおおむね一致していると考えられ、PTA活動をより活発化するようニーズの把握に努めたいと思います。

- 8 職員⑦学校は、地域の特別支援教育のセンター的役割を行っている。
関係機関②学校は、支援学校としての地域教育機関への支援をしていると思いますか。

職員	関係機関
96.7%	100%

二者間で、3.3ポイントの差と非常に小さく、95%以上の評価であり、二者の認識がおおむね一致し機能していると考えられます。（関係機関は母数が17のため、参考値）

- 9 保護者⑩学校は、ホームページを活用して、十分な情報発信を行っていると思いますか
職員⑩学校は、広報やホームページを活用して、学校の情報の公開と発信に努めている。
関係機関①学校は、地域等へ行事等を発信したり、ホームページなどを通して情報発信したりしている
と思いますか。

保護者	職員	関係機関
69.6%	90.8%	90.7%

三者間で、最大21.2ポイントの差と大きな値となりました。自由記述には、スマートフォン、家庭でのインターネット環境がないので無駄な質問であるとの指摘もありましたが、やはり、タイムリーな全体への情報の公開と発信については活用するメリットが大きく、そのための活用であることの周知に努めるとともに、ホームページの更新等に努力していきたいと思います。また、紙媒体でも、配布回数を見直すなど、できる限りお知らせしていく予定としております。（関係機関は母数が17のため、参考値）

6 学校評議員からの意見・提言

- (1) 細かく分析しているが職員が結果を共有して取り組むことが可能だろうか。項目が多いほど共有・注目は難しい。保護者にもいろいろな段階がある。入学時は混乱していることが多く、子供の障がい理解し、前に進むには5・6年かかる。善悪の判断がつかない子供も増えている。教員は、子供の教育だけでなく保護者とじっくり話し合い啓発していくことも重要である。
- (2) 就職については作業所・施設等も国から独立採算が言われるようになり厳しくなっている。子供たちにとって何が必要か本質を見抜くことが重要であり、そのことを踏まえてやってほしい。
- (3) 学校評価は詳細な部分にまでこだわらなくてもよいのではないかと。本質がおろそかになる。骨子の部分、子供たちの命、教育、大人になってからの生き方に集中してもらえればよい。本質をしっかり行えば皆が満足する。
- (4) 高等学校の評価では学校が楽しいか、保護者は入学させてよかったと思っているのかということを見た。今回の学校評価を見ると生徒・保護者の評価からはまず合格点ではないか。学校評価は全体の傾向がつかめればよい。経営参加の意識を職員一人一人に醸成すること。赤荻幼稚園との交流は今後も続けてほしい。小さいときから人との関わりを深め、継続していくことが大切である。
- (5) きめ細かい報告を聞かせてもらった。この調子でよろしく願います。
- (6) 学校評価の話で「いじめ防止100%」を目指すという話があった。100%になるのは絶対ないと思うがそれを目指して取り組んでいただくことは保護者として安心である。先生方と保護者が分かり合えば子供たちは伸びていくと思うので今後もよろしく願います。

7 校長お礼のことは

心強い提言ありがとうございました。「いじめ防止」の問いは教師としての姿勢を問う質問でした。学校として職員が「いじめ防止」に取り組むことを意識しているか、気構えの問題なので100%を目指したいと思います。

学校評価の分析をしっかり行うことが大切であると考えます。先生方が何をすればよいのか見つける機会であり、保護者の皆さまが何を求め、どう考えているのかを知る機会と考えています。

学校評価は自分たちのやっていることを見直し方向性を確認できる場であるので、どのように有効に活用するか検討していきたいと考えております。

平成27年度 学校評価に関する調査結果【教職員】

資料1

1 回答数・回答率

校舎・分教室	教職員数	回答数	回答率
本校舎(事務部含む)	79人	79人	100.0%
山目校舎	25人	25人	100.0%
あすなろ分教室	9人	9人	100.0%
千厩分教室	13人	13人	100.0%
合計	126人	126人	100.0%

2 設問への回答結果

A:よくできている	B:おおむねできている	E:わからない(評価できない)
C:あまりできていない	D:できていない	

(1)「学校経営全般」について

①学校は、教育目標・経営方針を適切に設定し、達成できるように実践している。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
25.0%	74.2%	0.0%	0.0%	0.8%	97.3%	1.9%
99.2%		0.0%		0.8%		

②教職員は、お互いに意思疎通を図りながら、信頼関係を築いている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
23.3%	62.5%	10.8%	2.5%	0.8%	88.6%	-2.8%
85.8%		13.3%		0.8%		

③学校は、学校の取組や幼児児童生徒の様子について、保護者に適切に情報提供をしている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
47.5%	51.7%	0.8%	0.0%	0.0%	99.2%	0.0%
99.2%		0.8%		0.0%		

④学校は、校舎、敷地を清潔に保っている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
24.2%	61.7%	10.8%	2.5%	0.8%	89.5%	-3.7%
85.8%		13.3%		0.8%		

⑤学校は、幼児児童生徒の病状や障がい配慮し、安全な教育環境を整えている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
29.2%	55.0%	12.5%	2.5%	0.8%	87.7%	-3.5%
84.2%		15.0%		0.8%		

⑥学校は、会議の精選や意志決定の迅速化を図り、ゆとりや見通しが持てる職場環境の整備に努めている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
16.7%	45.8%	30.0%	5.0%	2.5%	56.1%	6.4%
62.5%		35.0%		2.5%		

⑦教職員は、来客や電話等、外部に対する丁寧な対応に心がけている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
56.7%	42.5%	0.0%	0.0%	0.8%	98.2%	1.0%
99.2%		0.0%		0.8%		

⑧学校は、地域の教育資源(施設・機関)を活用した教育活動を行っている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
37.5%	54.2%	5.8%	0.0%	2.5%	81.6%	10.1%
91.7%		5.8%		2.5%		

⑨学校は、危機管理体制を適切に設定し、運用している。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
37.5%	56.7%	4.2%	0.8%	0.8%	92.1%	2.1%
94.2%		5.0%		0.8%		

⑩学校は、いじめ、体罰、差別等を排除する学校づくりに努めている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
60.8%	34.2%	0.8%	0.8%	3.3%	93.0%	2.0%
95.0%		1.7%		3.3%		

(2)「教育活動について」について

①学校は、幼児児童生徒が有用感をもって生き生きと学習活動に参加できるように努めている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
50.8%	47.5%	0.8%	0.0%	0.8%	99.2%	-0.9%
98.3%		0.8%		0.8%		

②学校は、幼児児童生徒の実態や保護者のニーズを反映させた個別の指導計画を作成し、活用している。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
40.8%	55.8%	2.5%	0.0%	0.8%	95.6%	1.1%
96.7%		2.5%		0.8%		

③学校は、幼児児童生徒の実態に合わせて、健康管理や体力向上の指導を適切に行っている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
55.8%	40.8%	1.7%	0.0%	1.7%	97.4%	-0.7%
96.7%		1.7%		1.7%		

④教職員は、幼児児童生徒が気軽に相談したり話しかけたりできるように努めている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
61.7%	32.5%	1.7%	0.0%	4.2%	99.1%	-4.9%
94.2%		1.7%		4.2%		

⑤学校は、地域や居住地校との交流や共同学習を積極的に推進している。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
47.5%	47.5%	1.7%	0.0%	3.3%	92.1%	2.9%
95.0%		1.7%		3.3%		

⑥学校は、キャリア教育の視点を取り入れ幼児児童生徒の将来を見通した教育を行っている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
39.2%	50.8%	5.0%	0.0%	5.0%	90.3%	-0.3%
90.0%		5.0%		5.0%		

⑦学校は、被災地のニーズに対応した復興教育を推進している。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
21.7%	50.0%	10.0%	0.8%	17.5%	74.5%	-2.8%
71.7%		10.8%		17.5%		

⑧学校は、個々の生徒の実態やニーズに応じた進路指導を適切に行っている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
40.8%	46.7%	2.5%	0.0%	10.0%	92.1%	-4.6%
87.5%		2.5%		10.0%		

※前年度は「学校は、進路指導を適切に行っている。」

(3) 「学校・保護者・地域の連携」について

①教職員は、幼児児童生徒の指導に関して、保護者や家庭のニーズの把握に努めている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
47.5%	52.5%	0.0%	0.0%	0.0%	99.1%	0.9%
100.0%		0.0%		0.0%		

②学校は、保護者や家庭のニーズを反映させた教育活動を行うように努めている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
44.2%	54.2%	0.0%	0.0%	1.7%	97.3%	1.0%
98.3%		0.0%		1.7%		

③学校は、保護者に対して、幼児児童生徒の様子を分かりやすく伝えている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
53.3%	45.0%	0.0%	0.0%	1.7%	100.0%	-1.7%
98.3%		0.0%		1.7%		

④教職員は、保護者が気軽に相談できる環境づくりに努めている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
45.8%	50.8%	0.8%	0.0%	2.5%	96.5%	0.2%
96.7%		0.8%		2.5%		

⑤学校は、保護者に対して、進路に関する十分な情報を提供している。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
39.2%	48.3%	7.5%	0.0%	5.0%	88.6%	-1.1%
87.5%		7.5%		5.0%		

⑥学校は、PTA活動に対して、適切な支援を行っている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
59.2%	38.3%	0.8%	0.0%	1.7%	95.6%	1.9%
97.5%		0.8%		1.7%		

⑦学校は、地域の特別支援教育のセンター的役割を十分に果たしている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
57.5%	39.2%	0.0%	0.0%	3.3%	90.4%	6.3%
96.7%		0.0%		3.3%		

⑧学校は、医療機関の協力や支援を適切に得られるように努めている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
49.2%	42.5%	2.5%	0.0%	5.8%	91.2%	0.5%
91.7%		2.5%		5.8%		

⑨学校は、広報やホームページを活用して、学校の情報の公開と発信に努めている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
40.8%	50.0%	9.2%	0.0%	0.0%	89.5%	1.3%
90.8%		9.2%		0.0%		

(4)「研修」について

①校内での研修会が十分に行われ、教職員の指導力の向上に役立っている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
36.7%	57.5%	5.8%	0.0%	0.0%	93.9%	0.3%
94.2%		5.8%		0.0%		

②各学部における授業研究が十分に行われ、幼児児童生徒の将来の社会自立に向け、生きる力を高める授業実践が行われている。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
45.8%	50.8%	3.3%	0.0%	0.0%	96.5%	0.2%
96.7%		3.3%		0.0%		

③学校は、校外で開催される研修会や長期休業中の勤務場所外研修に、教職員が参加(申請)しやすい環境づくりに配慮している。(長期休業中の勤務場所外研修の申請を含む)

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
33.3%	52.5%	10.8%	1.7%	1.7%	77.2%	8.6%
85.8%		12.5%		1.7%		

平成27年度 学校評価に関する調査結果【児童生徒】

資料 2

1 回答数および回答率(幼稚部4名は実施せず)

校舎・分教室	小学部	中学部	高等部	在籍数計	回答数	回答率
本校舎	10人	36人	76人	122人	113人	92.6%
山目校舎	28人			28人	23人	82.1%
あすなる分教室	1人	4人	12人	17人	0人	0.0%
千厩分教室	13人	9人		22人	13人	59.1%
在籍数計	52人	49人	88人	189人	149人	78.8%
回答数	38人	32人	71人	141人		
回答率	73.1%	65.3%	80.7%	74.6%		

2 設問への回答結果(無回答を除いた回答数に対する各項目の割合を%で表示)

A:はい B:いいえ C:わからない

① (小)あなたは、学校が楽しいですか。

① (中)あなたは、学校が楽しいですか。

① (高)あなたは、学校が楽しいですか。

	A	B	C	前年度(A)	前年度比(A回答)
小学部	97.4%	0.0%	2.6%	100.0%	-2.6%
中学部	84.6%	12.8%	5.1%	80.6%	4.0%
高等部	72.9%	10.0%	17.1%	76.8%	-3.9%

② (小)先生は、わかりやすく勉強を教えてくださいませんか。

② (中)先生は、わかりやすく勉強を教えてくださいませんか。

② (高)先生は、わかりやすく勉強を教えてくださいませんか。

	A	B	C	前年度(A)	前年度比(A回答)
小学部	84.2%	2.6%	13.2%	100.0%	-15.8%
中学部	87.5%	0.0%	12.5%	80.6%	6.9%
高等部	88.7%	0.0%	11.3%	82.6%	6.1%

③ (小)先生は、あなたの話をきいてくれますか。

③ (中)先生は、あなたが困ったときや悩みがあるときに、相談にのってくれますか。

③ (高)先生は、あなたが困ったときや悩みがあるときに、相談にのってくれますか。

	A	B	C	前年度(A)	前年度比(A回答)
小学部	94.7%	2.6%	2.6%	100.0%	-5.3%
中学部	77.5%	2.5%	20.0%	86.1%	-8.6%
高等部	82.6%	1.4%	15.9%	81.2%	1.4%

④ (小)先生は、あなたががんばったことをほめてくれますか。

④ (中)先生は、あなたが努力したことを認めてくれますか。

④ (高)先生は、あなたが努力したことを認めてくれますか。

	A	B	C	前年度(A)	前年度比(A回答)
小学部	97.4%	2.6%	0.0%	88.9%	8.5%
中学部	90.0%	0.0%	10.0%	77.8%	12.2%
高等部	84.3%	1.4%	14.3%	81.2%	3.1%

⑤ (小)学校には、あぶないところはなくて、安心ですか。

⑤ (中)学校は、安全で過ごしやすいですか。

⑤ (高)学校は、安全で過ごしやすい環境が整えられていますか。

	A	B	C	前年度(A)	前年度比(A回答)
小学部	84.2%	7.9%	7.9%	77.8%	6.4%
中学部	85.0%	7.5%	7.5%	86.1%	-1.1%
高等部	81.4%	5.7%	12.9%	82.6%	-1.2%

- ⑥ (中)先生は、あなたが病気やけがをしないようにするためには、どうすればよいか教えてください
 ⑥ (高)先生は、あなたが病気やけがをしないようにするためには、どうすればよいか教えてください

	A	B	C	前年度(A)	前年度比(A回答)
中学部	87.5%	0.0%	12.5%	86.1%	1.4%
高等部	90.1%	0.0%	9.9%	81.2%	8.9%

- ⑥ (小)(交流学习では)友だちと楽しく交流できましたか。
 ⑦ (中)(交流学习では)他校や居住地校の生徒と十分に交流できましたか。
 ⑦ (高)一関二高との交流学习では、十分に生徒同士の交流ができましたか。

	A	B	C	前年度(A)	前年度比(A回答)
小学部	94.4%	0.0%	5.6%	77.8%	16.6%
中学部	87.5%	6.3%	6.3%	52.8%	34.7%
高等部	40.0%	3.1%	56.9%	37.7%	2.3%

- ⑧ (高)地域や被災地の奉仕活動は、良い活動内容でしたか。

	A	B	C	前年度(A)	前年度比(A回答)
高等部	41.2%	4.4%	54.4%	69.6%	-28.4%

- ⑨ (高)先生は、進路について十分な情報を提供してくれますか。

	A	B	C	前年度(A)	前年度比(A回答)
高等部	78.3%	5.8%	15.9%	78.3%	0.0%

- ⑧ (中)先生は、進路について相談にのってくれますか。
 ⑩ (高)先生は、あなたの進路実現に向けて相談にのってくれますか。

	A	B	C	前年度(A)	前年度比(A回答)
中学部	75.0%	0.0%	25.0%	58.3%	16.7%
高等部	81.4%	5.7%	12.9%	82.6%	-1.2%

平成27年度 学校評価に関する調査結果【保護者】

資料3

1 回答数・回答率(兄弟姉妹が在籍する場合は、保護者が1回のみ回答として集計)

校舎・分教室	幼児児童 生徒数	保護者数	回答数	回答率
本校舎	126人	123人	111人	90.2%
山目校舎	28人	28人	27人	96.4%
あすなる分教室	17人	17人	17人	100.0%
千厩分教室	22人	22人	21人	95.5%
合計	193人	190人	176人	92.6%

2 設問への回答結果(無回答を除いた回答数に対する各項目の割合を%で表示)

A:よくできている	B:おおむねできている	
C:あまりできていない	D:できていない	E:わからない(評価できない)

(1)「学校経営全般」について

①学校は、教育方針を分かりやすく伝え、達成できるように努力していますか。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
50.9%	44.0%	1.7%	1.1%	2.3%	96.2%	-1%
94.9%		2.9%		2.3%		

②学校の校舎や敷地は、清潔に保たれていますか。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
59.8%	34.5%	1.7%	2.9%	1.1%	93.0%	1%
94.3%		4.6%		1.1%		

③学校は、幼児児童生徒の病状や障がい配慮し、安全な教育環境を整えていますか。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
56.6%	38.7%	2.3%	0.6%	1.7%	93.0%	2%
95.4%		2.9%		1.7%		

④学校は、地域の教育資源(施設・機関)を活用した教育活動を行っていますか。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
41.4%	47.7%	4.6%	0.0%	6.3%	91.0%	-2%
89.1%		4.6%		6.3%		

⑤学校は、地震や風水雪害等の非常時に備え、緊急連絡網や備蓄品の整備等の対応を適切に進めていると思いますか。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
56.9%	33.3%	1.7%	0.6%	7.5%	93.0%	-3%
90.2%		2.3%		7.5%		

⑥学校は、いじめ、体罰、差別等を排除する学校づくりに努めていると思いますか。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
50.0%	32.4%	2.4%	1.2%	14.1%	82.1%	0%
82.4%		3.5%		14.1%		

(2)「教育活動について」について

⑦お子さんは、学校で楽しく学習活動に参加していますか。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
53.7%	37.7%	4.6%	1.7%	2.3%	94.9%	-3%
91.4%		6.3%		2.3%		

⑧学校は、個別の指導計画や教育支援計画に、保護者の願いを反映させていますか。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
51.4%	41.7%	4.0%	1.7%	1.1%	95.5%	-2%
93.1%		5.7%		1.1%		

⑨学校の授業は、お子さんに合った適切な学習内容になっていますか。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
46.9%	44.0%	3.4%	0.6%	5.1%	92.4%	-2%
90.9%		4.0%		5.1%		

⑩学校は、健康管理や体力向上について、お子さんの実態に合わせて適切に行っていますか。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
60.6%	33.7%	4.0%	0.6%	1.1%	96.8%	-3%
94.3%		4.6%		1.1%		

⑪学校は、幼児児童生徒一人一人が活躍できるように学校行事を工夫して行っていますか。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
62.1%	31.6%	1.7%	0.6%	4.0%	95.5%	-2%
93.7%		2.3%		4.0%		

⑫学校は、地域や居住地校等との交流学习や共同学習を十分に行っていますか。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
46.6%	35.1%	6.3%	2.3%	9.8%	82.2%	-1%
81.6%		8.6%		9.8%		

(3)「学校・保護者・地域の連携」について

⑬学校は、保護者宛の文書や広報等で、学校の取組や幼児児童生徒の様子について、わかりやすく情報提供をしていますか。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
57.8%	36.1%	4.2%	1.8%	0.0%	93.6%	0%
94.0%		6.0%		0.0%		

⑭学校は、お子さんの進路について、十分な情報提供をしていますか。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
40.7%	38.9%	9.3%	1.9%	9.3%	84.7%	-5%
79.6%		11.1%		9.3%		

⑮学校は、地域の福祉サービス等について、十分な情報提供をしていますか。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
34.8%	41.6%	9.3%	1.9%	12.4%	77.1%	-1%
76.4%		11.2%		12.4%		

⑯学校は、ホームページを活用して、十分な情報発信を行っていますか。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
31.1%	38.5%	8.1%	1.2%	21.1%	63.7%	6%
69.6%		9.3%		21.1%		

⑰学校は、PTA活動に対して、適切な支援を行っていますか。

A	B	C	D	E	前年度(A+B)	前年度比(A+B)
50.0%	40.7%	0.6%	0.0%	8.6%	85.4%	5%
90.7%		0.6%		8.6%		

1 回答数・回答率

関係機関	依頼数	回答数	回答率
福祉サービス事業所	7	6	85.7%
継続型支援対象校	11	11	100.0%
計	18	17	94.4%

2 設問への回答結果

A:よくできている	B:おおむねできている
C:あまりできていない	D:できていない
E:わからない(評価できない)	

- (1) 学校は、地域等へ行事等を発信したり、ホームページなどを通して情報発信したりしていると思いますか。

A	B	C	D	E
41.2%	52.9%	0.0%	0.0%	5.9%
94.1%		0.0%		5.9%

- (2) 学校は、支援学校としての地域教育機関への支援をしていると思いますか。

A	B	C	D	E
82.4%	17.6%	0.0%	0.0%	0.0%
100.0%		0.0%		0.0%

- (3) 学校は、地域行事への参加や校外作品展への出品を積極的に行っていると思いますか。

A	B	C	D	E
35.3%	35.3%	0.0%	0.0%	29.4%
70.6%		0.0%		29.4%

- (4) 学校は、関係機関との連携を密に行っていると思いますか。

A	B	C	D	E
70.6%	23.5%	0.0%	0.0%	5.9%
94.1%		0.0%		5.9%